

コーヒー生産農家に変化をもたらすコンポスト

国際開発救援財団(FIDR)はソンラ省のタイバック大学と協力し、今年3月から同省のコーヒー生産農家を対象に、コンポスト(堆肥)の活用に関する研修を行ってきました。

研修を開始した時点では、「コンポストを作るのは手間だし、時間と費用も掛かると思っていたので、やってみようという気持ちはこれまでなかった」という農家の声が多くありました。

研修ではコンポストの作り方やそのメリットを分かりやすく説明されました。すると、自宅で調達できる有機性廃棄物を用いて手軽に費用をかけずにできることを知り、さっそく多くの農家で堆肥づくりが始まりました。

「コンポストを作るには、自宅や家畜飼育から出る廃棄物をリサイクル活用できるので、とてもいいことですね。これをまだ知らないご近所さんもあります。稲刈りが済んだ後の籾殻を捨ててしまっているのもったいないです。このコンポストの技術をぜひ周りの人たちにも教えてあげます」と研修を受けた農家は語りました。

コンポストを作るための貯蔵タンクを設置した農家もありました。「これから2~3か月後に完熟するコンポストをぜひコーヒーの木の栽培や家庭菜園に使いたい」と期待に胸を膨らませています。

環境にやさしく、農家の経済的負担にもならないコンポストの導入で農家の技術と意欲はますます高まっています。FIDRは引き続き、現地にさまざまな変化をつくってまいります。



研修でコンポストの作り方を
実演しました

「果物と一村一品フェスティバル」で全国にアピール

5月末にソンラ省ソンラ市で、「果物と一村一品フェスティバル」が催されました。国内マーケットの拡大と輸出の強化を図る大きなイベントの会場では全国各地の特産品や果物、手工芸品などが紹介されました。

ソンラ省はアンズ、ウメ、マンゴー、リュウガンといった果実をはじめ、世界で人気のあるアラビカ種のコーヒーなど多彩な農産物の生産拠点です。今回のフェスティバルを通じて、ソンラ省の農家はコーヒーをはじめ、ドライフルーツ、お茶など地元の特産品を、全国の多くの消費者や企業に知ってもらえたことで、将来に向けた確かな可能性を感じることができました。



フェスティバルの様子が国内の
メディアにも紹介されました